

2017 年 11 月度 建築音響研究会 開催報告

11 月度の研究会は茨城大学水戸キャンパスで開催しました。研究会のテーマは一般で、建物用途別の利用者からみた床材の要求性能調査に関する検討、評価グリッド法を用いた鉄道駅での視聴覚情報の提示手法に関する一考察、ヘッドホンおよびヘッドマウントディスプレイによる音・視環境提示手法を用いた都市環境音の評価、保育室・教室における音環境の実測調査などの 4 件の発表が行われました。参加者は 15 名とそれほど多くありませんでしたが、大変活発な質疑討論が行われ、研究会はとても盛況でした。今後も引き続き、積極的な話題提供と研究会への多数のご参加をお願い申し上げます。

■ 開催概要

日 時 平成 29 年 11 月 22 日（水）
13:30～16:30
場 所 茨城大学水戸キャンパス
共通教育棟 2 号館 2 階 24 番教室
〒310-8512
茨城県水戸市文京 2-1-1
参 加 者 15 名



■ 発表題目および内容概要（テーマ：一般）

※以下の概要は建築音響研究会資料の「内容概要」から転載したものです

1. 建物用途別の利用者からみた床材の要求性能調査に関する検討

○坪井新拓, 井上勝夫, 富田隆太（日本大学）

【概要】建築の部位である床は人々が活動する上で、直接触れる部位であるため、安全、快適、衛生的である必要がある。その性能はJIS A 0030（建築の部位別性能分類）で定義されている他、床材メーカーの商品カタログやホームページ等で記載されている。しかし、建物用途の多様化や複合化などで床における要求性能も多様化しており、かつ、それらの性能が定量的に示されていないものもある。本研究は、床仕上げ材の建物用途の利用者からみた要求性能に着目して、それらの要求度合を反映させた総合的な性能表示方法を検討することを目的としている。本報では、床に要求される性能に関するヒアリング調査とアンケート調査により、建物用途別と住宅の室用途別の性能要求度合に対する分析をした結果を示す。

2. 評価グリッド法を用いた鉄道駅での視聴覚情報の提示手法に関する一考察

○辻村壮平（茨城大学）、池田佳樹（JR 東日本）

【概要】本稿では、誰もが利用しやすい鉄道駅のサインの実現に向けて、著者らがこれまでに取り組んできた評価グリッド法を用いたインタビュー調査を紹介し、これらの調査で得られたサインの評価構造データを比較することで、サイン計画における視覚情報と聴覚情報の提示手法に関する考察を行った。情報提供の在り方として、聴覚情報によりサインの誘目性を高め、視覚情報によって情報の理解しやすさを高めることが、利用者の移動円

滑性の向上に効果的である可能性を示した。

3. ヘッドホンおよびヘッドマウントディスプレイによる音・視環境提示手法を用いた都市環境音の評価

○朝倉巧（東京理科大学），辻村壮平（茨城大学），米村美紀（東京大学大学院），
李孝珍，坂本慎一（東京大学生産技術研究所）

【概要】都市の音環境が居住者へ与える主観的印象に関する研究事例が多数報告されているが、実際の空間においては視覚的情報が音の印象に影響を与えている可能性も示唆されている。本報では、ヘッドマウントディスプレイおよびヘッドホンから構成される音・視環境提示手法を用いて、都市環境音の主観評価実験を実施した結果を報告する。都市環境音として、自動車、鉄道、航空機飛行音を含む交通騒音、森、滝、河川を含む自然音を対象として、視覚的情報がラウドネス、アノイアンス評価結果へ与える影響について考察する。

4. 保育室・教室における室内音環境の実測調査

○渡邊真之佑，上野佳奈子（明治大学），高橋秀俊（国立精神・神経医療センター）

【概要】保育・教育施設において子どもたちが日常を過ごしている音環境を把握するために、島嶼部の保育園と小学校において保育室と教室の室内音環境の実測調査を行った。保育室では児童の在室中には60－85 dB程度、昼食時には70－85 dB程度であった。小学校では教室での授業時は65－80 dB程度、昼食時は70－85 dB、音楽室では授業時に70－90 dBであった。既往研究における保育室での測定結果と比較したところ、同園の異なる時期とは顕著な差は見られず、他園と比較すると5 dB程度低めの結果であった。教室についてはオープンプラン型小学校における既往研究の測定結果と比較したが、顕著な差は見られなかった。

☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合せ先：

担当幹事（<http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html>）までご連絡下さい。